

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	中村 暢
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
主体性を確立する読みを目指した説明的文章の授業の研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	難波	博孝
審査委員	教授	吉田	裕久
審査委員	教授	木村	博一
〔論文審査の要旨〕			
<p>本研究は、説明的文章の授業における読者の主体性を確立する読みとして、「自ら倫理的根拠をもちながら、能動的にテキストに働きかける活動の発動者としての読み」の指導方法を明らかにすることを目的としている。</p> <p>本研究の研究課題は、次の7点である。</p> <p>〔研究課題1〕 倫理的根拠について教育哲学研究における教育人間学研究を援用し、本研究で取り上げる学習者の価値判断を明らかにする。</p> <p>〔研究課題2〕 「主体的な読み」に関する先行実践／研究を検討し、読者が能動的にテキストに働きかけ、活動の発動者となる学習過程（読前過程、読中過程、読後過程）について考察する。</p> <p>〔研究課題3〕 近年取り組まれている「論理」を捉える説明的文章の授業において、なぜ学習者の価値判断を取り上げる必要があるのか、明らかにする。</p> <p>〔研究課題4〕 学習者の価値観を育成し、能動的にテキストに働きかけ、活動の発動者とする単元構成を明らかにする。</p> <p>〔研究課題5〕 テキストの内容に注目した説明的文章の授業について考察する。</p> <p>〔研究課題6〕 「主体性を確立した読み」を目指した授業を実際に行い、「主体性を確立した読み」について明らかにする。</p> <p>〔研究課題7〕 課題5、課題6で行った実践を、理論的に検討する。</p> <p>本論文は、8つの章からなり、各章を概括すると次のようになる。</p> <p>第1章では、「主体性を確立する読み」の定義である「自ら倫理的根拠をもちながら、能動的にテキストに働きかける活動の発動者としての読み」に基づき、「主体性を確立する読み」の全体像を明らかにしている。第2章では、第1章で提示した学習者の価値判断が、なぜ説明的文章の授業において必要なのか示している。第3章においては、現行の学習指導要領で謳われている「習得」、「活用」を目指した「単元を貫く言語活動」を設定する中で、学習者の価値判断を活用した単元構成を明らかにしている。第4章では、説明的文章の授業の中で内容に注目した場合、如何なる単元構成になるのか、その可能性について示している。第5章、第6章では、第1章～第4章において論じてきたことを基に実際に授業を</p>			

行い、「主体性を確立する読み」について考察している。第7章では、第5章、第6章で行った実践を理論的に検討している。第8章では、本研究の成果をまとめ、今後に残された課題を明らかにしている。

本研究は、次の3点で評価できる。

- (1) 学習者の価値判断を重視し、この価値判断に依拠しながら、学習者が能動的にテキストに働きかけ、活動の発動者となる指導方法を明らかにしていること

これまでの説明的文章の指導研究では、学習対象について内容か形式かという議論が行われてきた。これらに対し本研究では、説明的文章の授業における学習対象を、読者である学習者の価値観の育成としている。本研究でいう価値（観）とは、絶対的な価値の存在や功利的な意味での価値ではない。常に吟味・検討し続けられなければならない対象として位置づけている。そこで、主体性を確立する読みの授業では、説明的文章を現実の諸課題に対する筆者の価値判断の1つであるとし、学習者の価値判断をそれに向き合わせ、吟味・検討する学習過程を設定している。それに伴い、読者である学習者は、説明的文章の価値判断の枠組みに適応し従属することなく能動的にテキストに働きかけ、価値判断の再考を図る契機として説明的文章を読む活動を位置づけることになる。これらの考察は、先行研究になく、新たな研究成果といえる。

- (2) 説明的文章を読むという授業及び活動を、学習者の日常生活の延長上に位置づけていること。特に読前過程、読後過程を重視し、学習者の日常生活との連続性を保障していることである。

これまでの説明的文章の実践／研究では、テキストを実際に読む読中過程のみに注目し、指導方法が議論されてきた。この点に対して本研究では、テキストを読む前の読前過程、テキストを読んだ後の読後過程を重視した学習過程を設定している。特に読前過程において学習者の価値判断を表出し、学習者相互に議論する活動を設定することで、日常生活における価値判断を表出させ、日常生活と連続する中でテキストを読む活動を位置づけている。これは(1)の価値に対する捉え方を基にした学習過程であり、説明的文章を読む学習過程を読者の価値判断の再考の過程としている。この価値判断を再考する過程は、読後の日常生活の行動判断を支える価値判断の再考であり、説明的文章の学習の生活化を図る指導方法を提唱するものである。

- (3) これまでの説明的文章の指導研究の中で取り上げることに批判的であった「内容」を重視し、尚かつそのことが形式や論理をよりよく捉えることができることを示していること

これまでの説明的文章の指導論において、国語科では「内容」よりも、形式が重視されていた。この点に対して本研究では、「内容」に注目することで、説明的文章のコンテキストを捉え説明的文章の筆者の価値判断の対象を捉えたり、テキストの論理を捉えるために必要であったりすることを明らかにし、「内容」に注目した指導方法、またその必然性を提唱しているものである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成27年 2月 8日